

第1回推進会議において挙げられた論点

区分	論点と発言（概要）
1 MICE推進における目標等の設定にかかるとご意見	(1) 区の取り組むMICEのターゲット（国内／インバウンド）にかかるとご検討
	<p>① 区内ホテルは、訪日外国人は個人客の受入を中心に考えているところが多く、大田区MICEは海外を狙うのか国内を狙うのか、方向性を決めていく必要がある。</p> <p>② インバウンド、観光、MICEは切り分けなければならない。</p>
	(2) 区の取り組むMICEの位置づけ（観光の素材の一部／イノベーション創出の場）にかかるとご検討
	<p>① MICEの位置づけを、観光の素材の一つとするのか、それとも産業のイノベーションの創出の場とするのか、議論していきたい。</p> <p>② 観光は付帯となるのか、中心となるのかについて、決める必要がある。</p>
2 大田区が取り組むべきMICEの内容にかかるとご意見	(1) 対外的に訴求すべき「大田区らしさ」のご検討
	<p>① 宿泊せずとも長い時間、区に留まりたいと思ってもらえるような「大田区らしさ」を考えていけると、売る側は提案しやすい。</p> <p>② 交通の便が良く、輸送手段があるため、宿泊需要への対応は区外でも良い。宿泊以外の点で区内に滞在してもらえようような、プラスアルファの材料があれば良い。</p> <p>③ 大田区、品川区、港区の湾岸エリアは新駅開業も控えており、まだまだ状況が変わってくるだろう。区同士の連携を図りつつ、並行して大田区らしさを考えていく必要がある。</p>
	(2) 区で「一部関われる」もしくは「全て賄える」MICE種別のご整理
3 連携体制・推進体制の充実にかかるとご意見	(1) 地域内事業者間の連携体制のご構築
	<p>① 区の経済活性化を最終目的とした場合、イベントはきっかけでしかなく、来訪者を飲食や宿泊等へ導かなくてはならない。個店単位ではなく、エリアとして受け入れを行い、いかにして地域で事業者間が連携できるか、というところが重要になる。</p>
	(2) 都や近隣区との連携体制のご構築
	<p>① これまでMICEの推進は都が主体となって考えていたが、区としても誘致や受入に取り組んでいきたい。</p> <p>② 東京都内の自治体なので、「& TOKYO」のように、「東京」の持っている資産やノウハウを十分に活用していくことが重要である。</p> <p>③ 東にビッグサイト、西にパシフィコがあり、また宿泊施設が不足している状況の中で、MICEの全てを区で賄うことは不可能だと思う。近隣の地域と連携して取り組んでいくことで、大田区らしさや地域性を存分に発揮できる。</p>
4 情報発信にかかるとご意見	(1) MICE理解促進のための区民および区内事業者への情報発信手段のご検討
	<p>① 地域を巻き込んでいくための活動が非常に難しく、PRビデオ等では効果がない。これは国でも一番の課題である。</p>
	(2) 基礎情報の積み上げによる区内外へのデータ開示可能性にかかるとご検討
	<p>① 大規模イベント等によって地域経済に良い影響が及ぼされているという実感がほとんどない。もう少し情報発信を行うべきである。</p> <p>② 経済波及効果を示せれば良いが、現状では公表された試算はない。会議の日程や人数等は開示できるが、実際に地域の事業者が得ている金額等のデータは開示できないためである。</p> <p>③ 地域にMICE誘致のメリットを説明していくため、どのようなデータを開示できるかを考えなくてはならない。それを開示し、積み上げていくことができれば、東京都に成功事例として提示できる。</p> <p>④ コンペに勝つという観点でも、宿泊施設等区内事業者の協力を得るという観点でも、整合性のある基礎情報の積み上げと開示は非常に重要である。</p> <p>⑤ 委員企業にも影響するため、海外の事例等も参照しつつ、今後どの部分であればどのように協力できるか、といった点について具体的に話していただきたい。</p>